

鼻水の吸引について

千葉県小児科医会 てらだ かずき 寺田 和樹 医師

こども急病電話相談

受診するべきかどうか迷ったら

#8000
毎日夜7:00~翌朝6:00

※相談は無料ですが、通話料はご負担いただきます。

ダイヤル回線・IP電話・光電話・銚子市からは
☎043 (242) 9939

Q1 鼻がつまっている乳児は吸引器等で吸ってあげたほうがいいの？

「鼻吸い」のメリットは大きく2つあります。

1つは中耳炎の予防、治療です。

中耳炎は鼻の奥から耳管(鼻・喉と耳をつなぐ管)を通して中耳(耳の中)に進入したウイルスや細菌が、鼓膜などに炎症を起こすことで生じます。「耳から」菌が進入して中耳炎になるわけではなく、「鼻から」中耳炎は生じます。

こどもが中耳炎になりやすい理由は、

- ① かぜをひく機会が多い
- ② 耳管の構造の問題(大人と比べこどもの耳管は短く、また耳管の傾きが水平なため、鼻に溜まったウイルスや細菌を含んだ分泌物が容易に中耳に進入しやすい)
- ③ 鼻水を上手にかめない(かぜをひくことで分泌される分泌物を外に出しにくい)

などが挙げられます。

中耳炎の対策として、①と②については有効な対策はありません。③への対策として、鼻をかめない乳幼児には鼻水を適宜吸ってあげることが重要です。

もう一つのメリットは不快感の解消です。

「鼻吸い」では大泣きしてしまう子どもも多いですが、「鼻吸い」が終わるとすっきりして穏やかな顔に戻ることが多いものです。鼻水が溜まっていると、それだけで不機嫌や哺乳不良の原因にもなりますので、鼻水が気になったときには受診してください。

Q2 年齢によっておすすめの器具(種類)は？

電動のものは理想ですが、高価であることを考えると手動のものでも十分です。

「鼻吸い」で大切なことは器具ではなく、鼻を吸うタイミングです。

鼻の粘膜が乾燥しているときには、上手に吸えないことが多いです。入浴後など、鼻の粘膜が潤っているときに吸ってあげることが効果的です。

上手に吸えないときは、受診していただき、病院の吸引機で吸うのが効果的です。

